

当科は、平成元年に呼吸器外科として他施設に先駆けて開設され、現在2名の常勤職員（田中明彦、三品泰二郎）と時々研修医1名にて呼吸器、縦隔、胸壁の手術を行っています。田中は、呼吸器外科学会指導医として手術を指導しており、三品は気胸センターの所長として飲み会のある日にはそれらをキャンセルして日夜気胸患者さんを受け入れております。当科では、平成元年から平成20年末までに胸部手術1459例をこなしており、内訳は、肺癌529例、転移性肺癌120例、気胸201例、縦隔腫瘍140例、胸郭出口症候群65例などです。

### 当科の特徴とは？

当科の一番の特長は、合併症を極力少なくし安全に手術を行うことを最優先にしていることです。過去5年間での待機的手術および胸部手術において術後死亡は、幸い1例もありませんでした。これは、当科独自の取り組みと総合病院としての各科との緊密な連携によって行われています。

### 当科独自の取り組みとは？

1. 執刀直前の抗生剤投与など院内感染防御マニュアルを基本としてから過去3年間において手術創が化膿したのは1例のみです。
2. 手術においては、リンパ節郭清時に気管支動脈を極力温存して気管支の虚血による合併症を予防。また、ヘモクリップを用いて止血し、術後の出血や乳び胸を予防。

### 他科との連携は？

1. 治療に情熱を持ったイケメンまたは美人の理学療法士が手術前後の呼吸リハビリテーションをマンツーマンにて行っています。術後の早期離床が可能となり、肺炎などの術後合併症がほとんどなくなっています。



前列右より：三品泰二郎医師・田中部長  
臨床研修医（平成21年度）

呼吸器外科  
部長  
田中 明彦



2. 当院は、臨床全32科が揃っており、各科の先生達とのコミュニケーションも非常に良く、電話一本で他科の先生がすぐに診に来てくれます。例えば、今までに肺癌手術直後の脳梗塞を2例経験しましたが直ちに脳神経外科医にみていただき、緊急カテーテル塞栓溶解療法等を施行して2例とも全く後遺症なく退院できています。多数科にまたがる疾患をもたれている患者さんにたいしても安心して治療を行うことができます。

### 肺癌手術の現況とは？

現在、ほとんどの症例を胸腔鏡下肺手術にて行い、小さな傷で安全に手術を施行しています。昨年の肺癌手術における輸血は1名に対してだけであり、輸血率は1.8%でした。肺癌が肺を超えて胸骨、胸壁まで達していても大丈夫。同組織の合併切除と再建を行うことにより治癒させることができます。また、肺癌のうちでも治療の困難な間質性肺炎合併例に対する手術を今までに12例（肺癌以外の間質性肺炎症例を含めると26例）施行していますが、周術期管理マニュアルを作成した平成10年からは全例に急性増悪をおこすことなく手術を達成しています。透析症例に対する肺癌手術も腎臓内科の協力のもとに15例施行しており、当科では当たり前の手術となっています。心疾患合併例に対しても循環器内科のバックアップにて、いつでも狭心症に対するカテーテル治療等が可能ですので安全に手術を行うことができます。

### 気胸センターとは？

昨年より気胸センターを開設して通常気胸から月経随伴性気胸、高齢の気腫性肺嚢胞症の難治性気胸にいたるまで気胸に対する治療を24時間体制で行っています。夜間、休日につきましては当院交換手さんに連絡いただければ当科医師（三品、次に田中）に電話がつながります。ただし時間外は、必ず医師の方から電話にてご連絡ください。スムーズに診療が行えるように、患者さんに手紙のみを持たせて連絡なく受診させることはお控えください。よろしくお願いいたします。